

◆松浪地区 ホームページのリニューアルオープン & 活用

この一年間を掛けて、「松浪地区まちぢから協議会ホームページ」(以下HP)がリニューアルオープンしました。新HPは「見るから使うへの進化」、「あなたのポケットに松浪ホームページを」をテーマとし、イベント告知や広報の掲示のほか、ゴミ回収・分別方法など地域住民の日常に役立つ情報提供を骨子とし、気軽に閲覧していただける作りになっています。

この趣旨のもと、各自治会もそれぞれの自治会ページを積極的に活用し始め、回覧や自治会だよりの掲載など各自治会の運用形態に合わせた使い方を試行しています。

HP活用の一事例として、「松浪コミセンまつり2023」では参加者募集の掲示・申込書のダウンロード告知をQRコードを併用して行いました。その結果、スマホからの閲覧が容易になり、ステージ・展示の参加者が過去最多の13団体となりお祭りも盛況でした。将来的には、松浪地区の方々に写真投稿などでHPに参加してもらえるようにして、「使うから参加するへのさらなる進化」を目指したいと思います。今後も松浪HPの更なる活用を図り、地域情報配信のデジタル化促進に繋げていきたいと考えます。



HPの活用で盛り上がった“コミセンまつり2023”

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。

松浪HP



◆湘南地区 第2回 湘南地区 スポーツ フェスティバル

令和5年10月8日(日)、柳島スポーツ公園にて湘南地区スポーツフェスティバルが開催されました。今までの自治会対抗型の湘南地区運動会から、柳島スポーツ公園の開場を機に**体験型のスポーツフェスティバルとして生まれ変わり**2回目の開催となりました。

天候は、秋晴れとはいかず曇天模様でしたが、たくさんの方々に参加いただき御礼申し上げます。

当日は**自由参加型で、好きな時間に好きなだけ参加**いただける形式として、グランドゴルフ、ストラックアウトや木製パタンクなど7種類のニュースポーツを趣向凝らした形で設定し、色々なスポーツを体験していただきました。また、お帰りの際は出口付近にてガラポン抽選会もおこない、参加賞をお持ち帰りいただきました。

今年の参加者は昨年より増え幼児から高齢者の方まで約220名ほどの方々に参加いただきましたが、予想人数には達せず告知方法などの集客方法などに課題を残しました。

次回開催もさらに趣向を凝らして、**魅力あるフェスティバルとして開催する予定**ですので多くの方々の参加をお願いいたします。



編集後記

今回は「今年度の活動・取組特集」として、掲載希望のあった7地区の記事を掲載しました。今年度ならではのトピックスやその地区ならではのイベント、力を入れている継続事業の紹介、そして地域のデジタル化を目指した活動成果など“まちぢからパワー”を感じました。皆さまいかがでしたでしょうか。

次号のお知らせ

次号(第10号)は、R6年度第1号の特集として、各地区の会長から「地区の紹介とR6年度の活動・取組み」について語っていただきます。市内13地区それぞれの特徴・特色をお互いに知る機会になればと思います。



2024.3
No.9



発行日 令和6年3月15日
編集・発行 茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会
〒253-8686
茅ヶ崎市茅ヶ崎1-1-1 (茅ヶ崎市役所内)
TEL 0467-84-9781
FAX 0467-84-9782
E-mail chigasaki-machiren@aioros.ocn.ne.jp
https://chigasaki-machiren.org/

「令和5年度の取組について」 茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会 副会長 広報部会長 三髯健一

茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会の会報誌「まちぢから」第2号をお届けいたします。

第1号では各地区の今年度の方針についてご紹介いたしました。第2号では今年度の各地区で行われた取組を紹介いたします。紙面の関係ですべての地区を紹介できませんでしたが、各地区ともいかに多くの住民の方々に参加していただけるか、地域をいかに盛り上げていくかを考えて取組を行ってまいりました。

また連絡会全体では、改めて地区のまちぢから協議会がどうあるべきかなどの研修も行いました。来年度も地域が元気であるように各地区は頑張ってください。

皆様も良いアイデアがあれば自らの地区に申し出てくださるとともに、ぜひ取組に参加していただけるようお願いいたします。

「令和5年度を振り返って」 市民自治推進課 三浦悦子

まちぢから協議会の活動支援や、市との連絡調整を担当している市民自治推進課です。

今年度、各地区まちぢから協議会では「コロナ禍前よりもさらに盛り上げる!」と、様々な活動していただきました。人と人が顔を合わせて集うことの大切さ。当然のように行われてきた毎年の行事を、当然のように継承していくことの重要性。そして、行事に集った人々の笑顔の素晴らしさを再確認した1年だったように思います。

元日に発生した能登半島地震でも、発生翌日から義援金を集める地域がありました。思いをすぐに活動に移せることも、まちぢからの強みだと思います。引き続き、活動が円滑に進むよう支援してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◆松林地区 松林地区コミュニティセンター整備の進捗状況

令和8年10月の開館を目指し、今年度より松林コミセンの設計が本格的にスタートしました。

令和5年5月には、松林地区の自治会や関係団体等から推薦された委員等により組織された「(仮称)松林地区地域集会施設等複合施設整備懇談会」が開催され、以降全6回に渡る会議において、設計のコンセプトや諸室のレイアウト等についての検討が行われました。

7月には、設計段階から多くの方々に関わっていただくことで、**将来に渡って愛着を持っていただけるコミセンとすることを目的**として、不特定多数の市民を対象に「松林コミセン整備に向けたワークショップ」が開催され、参加者からコミセンに関する様々なご意見をいただきました。

また、10月に開催された「松林コミセンの設計に関する説明会」や「松林地区まちぢから協議会の会議」において出された意見など、様々な場面において寄せられた幅広い意見を踏まえ、「外から活動が見えるようになっていること」、「目的なくふらっと立ち寄りたがう空間があること」、「多様な居場所があること」、「フレキシブルに使えること」といった施設のイメージを具体化した基本設計が12月に完成しました。

基本設計を踏まえ、今後は、令和6年度にかけて実施設計が進められ、**令和7年度から工事**が予定されています。松林地区の活動拠点として整備される待望の松林コミセンにぜひご期待ください。

右記の2次元バーコードから基本設計段階の建物平面図をご確認いただけます。



◆小和田地区

東小和田交差点での自転車左側走行啓発活動

国道1号線と辻堂駅に向かう通勤客や通学の方々で混雑する東小和田交差点は市内でも有数の交通量となり、特に朝の交差点は1分でも早く辻堂駅にたどり着きたい自転車の群れが大挙して押し寄せる。しかもこの交差点が小和田小や赤羽根中への通学路でもあり、見守りのおじさん方が子どもたちへの誘導を行っている。毎月第3水曜日に立つ啓発活動はもう4年目にもなろうか。この交差点で地元の自治会や父兄の方々が交差点に立って、自転車の左側走行を誘導し続けてきた。最初は左側走行を強く表示することがためられ、こわごとと交通安全の旗を見せる程度であったが、次第に自転車走行誘導に内容が変化していった。それは、急ぐ方々との無用なトラブルがあってはならないからだ。そんな中、神奈川県警のお巡りさんが同席してくれると、こちら側も安心して活動が続けられる。長年の啓発活動で交差点での左側通行は大きく改善され、交差点での待機場所は自転車でいっぱいになってきている。そして今はヘルメット着用の推進まで歩を進めることができた。地元の多くの方々がこの交差点に立つ姿こそ、“まちづから”の原動力なのであろう。



◆小出地区

先人の想いを引き継いで…「下寺尾遺跡文化祭」を開催

3回目となる「下寺尾遺跡文化祭」が、2023年10月22日(日)下寺尾廃寺跡及び隣接するめぐみの子幼稚園駐車場を会場として開催されました。当日は600人以上の方々が来場し、秋晴れの下、太古の大地を思わせる広い会場で各種イベントを楽しみました。

南関東では最大級の重層構造(縄文~奈良時代)を持つ下寺尾遺跡の魅力発信し、先人の想いを後世に伝えるべく、まちづから協議会に「下寺尾遺跡部会」を立ち上げ、地域住民・関係団体・学校が協力し、「埋蔵文化財」のきびしい制約の下、実現したまつりです。



まつりは古代服「貫頭衣」を着た佐藤光市長が矢を放つ儀式から始まりました。広い会場を存分に使い、和楽会「昇」の勇壮な太鼓の音、下寺尾太鼓保存会の子どもたち、インド古典楽器の演奏、ミニ土器作り、勾玉作り、火おこしなどの体験コーナー、クイズラリーや紙芝居、北陵高校元教頭先生の「古代の住い」解説、小出小学校の児童による遺跡研究の発表など盛りだくさん。地元的新鲜野菜の販売、キッチンカーの出店、綿あめ、焼き芋、ポップコーン、かき氷などお馴染みの出店もあり、お昼頃には河野太郎デジタル大臣も見えられ、貫頭衣を着て回るなど、会場は大いに盛り上がりました。

いつの日か、この会場が史跡公園となり、未来の子どもたちが日常生活の中で散策や運動、また多くの人々が集うコミュニケーションの場となることを夢見つつ、今後も「まちづから」を結集して「保存」と「活用」の両輪を回していきたいと思っています。



◆鶴嶺東地区

全部会共通事業「子どもの見守り活動」

令和3年度より、「地域の子どもは地域で守る・育む、地域も子どもと共に育つ」をスローガンとして「子どもの見守り活動」を全部会の共通事業として活動してきました。背景として、鶴嶺東地区の通学路には国道、県道、鉄道踏切、狭隘かつ自動車の往来が多い道路、狭い歩道、交通量の多い交差点など危険な箇所が多く存在することです。一方、子どもの見守り活動はそれぞれの学区毎に実施されていますが、他学区の取り組みについて情報共有の仕組みがないため、問題・課題の共有化ができていませんでした。



そこで、各地区の小中学校・見守り担当者へのヒアリングや、見守りに関する実態調査を行い報告書にまとめました。さらに、市の認定コミュニティ特定事業として申請し、見守り旗を作成・配布しました。令和4年度には市民集会でも「子どもの見守り」をテーマとして、ドライバーの死角となる電柱の移設(浜之郷小学校前)、子どもが渡りきれず混雑してしまう歩行者信号の延長(鶴嶺八幡宮前)、スクールゾーン標示の敷設(鶴嶺通り)を実現し、危険個所の改善につなげました。令和5年度は、小学校の近くを通るドライバーに学校があることをアピールし注意を呼びかけるため、鶴嶺小学校、浜之郷小学校、円蔵小学校に各学校の児童が交通安全を願ってデザインした横断幕や看板を設置しました。



「子どもの見守り活動」が地域に浸透し着実に前進するように、今後も地域一丸となって活動してまいります。



◆南湖地区

南湖地区合同防災訓練(避難所開設訓練)

南湖地区では令和5年度の合同防災訓練を「避難所開設訓練」とし、主に初動期(災害発生直後から24時間)の対応について、各自治会の防災関係者に西浜小学校避難所運営マニュアルに沿った形で活動の体験をしてもらう事を目的として実施しました。これに先立ち7月には「避難所運営ゲーム(HUG)」を老人憩の家「しおさい南湖」で行い、開設時の混雑状況や避難者の受付振り分けを疑似体験してから本番にのぞみました。



さらに8月末には災害別避難行動確認フローを回覧し、実際の災害発生時の避難について意識付けを十分行った後に初動期開設訓練を実施しました。

初動期は行政の担当配備職員が学校職員、自主防災組織および防災リーダーと協力して施設の安全確認や避難者の誘導員、受付・名簿担当、救護、情報班等々の協力者を避難者の中から選任していくこととなりますが、今回はあくまで開設の体験訓練ということで事前に役割分担と内容の手順書を作成したうえで実施しました。



また、避難者の方は受付終了後、誘導班が避難場所に誘導のうえ防災対策課の指導で避難所開設時の各資機材の設営訓練を行っていただきました。

実際に行ってみると、段取りや各書類の処理掲示物の内容など色々な問題が考えられ、訓練終了後、参加者より意見募集のアンケートを取り多くの意見を頂きました。取りまとめが完了しておりますので今後の避難所開設時に少しでも役立つようにできればと考えております。

